

## 富士山南麓における森林の復元活動

### — 2013年の活動報告・2014年活動計画 —

自然再生活動部会／中村華子

当会は2003年から、関東森林管理局静岡森林管理署と「山の自然学クラブ・富士山森の復元活動」という協定を締結して富士山の国有林で森林復元活動を行っています。活動地はヒノキの人工林だったところで、1996年9月に台風17号により大規模な風倒被害を受けました。その後、広葉樹林（自然林・天然林）を再生しようとしています。

参加して下さっている方には活動の際にお話しているとおり、天然林を目指しているということは、(1) 自立した森林を最終目標に、(2) 多様性を高めながら、(3) 遷移を進めることを目的に管理・保育作業することが活動の目標となります。これからも「自然のしくみに学び、より自然のプロセスに近く、より人間の関与を少なく」を指針にしていきます。より一層、楽しく有意義な活動になるよう、みなさまと協力しながら進めたいと考えております。

2013年の活動報告と2014年の活動計画について報告いたします。

なお、2013（平成25）年6月に協定を更新し、協定3期目に入りましたが、今回の協定更新では林野庁が協定締結の手続き方法について改定したことに伴って、国有林における協定活動の名称が「（旧）ボランティアの森」から「社会貢献の森」となりました。また、森林管理局長が策定する5カ年計画である「地域管理計画」と同じ期間（平成23年4月から28年3月末）とすることになったことにより、今回の協定期間は2016年3月31日までとなっています。なお、次期更新する場合は再び5年間の協定期間で継続することが可能です。森づくりには長い視点が必要ですから、これからもできるだけ長く続けていきたいと考えています。

#### 協定林について

場所：富士山国有林200林班 た小班4.56 ha

協定活動内容：「観察・記録・刈り出しなどの手入れを行い、従来の富士山の植生への復元・最善の育林方法の実施を目的とする行動」  
「環境教育を目的とした活動」

協定期間：2013年6月20日－2016年3月31日（2013年に更新し、3期目）

#### 2013年度活動実績（日程ごとの詳細は次頁の表に掲載）

活動日数 のべ13日間

参加者数 72名 うち会員21名 一般51名

今年よりセラニーズジャパン株式会社の社員ボランティアの受け入れを開始

種子を採取した樹種 2013年は ヤマハンノキ、クマシデ、ブナ、ミズナラ、アブラチャン、クロモジ、マメザクラ、カマツカ、コクサギ、キハダ、コハウチワカエデ、オオモミジ、ホソエカエデ、イトマキイタヤ、ウメモドキ、コマユミ、ヒロハツリバナ、ツリバナ、マユミ、ユモトマユミ、ミツバウツギ、クロウメモドキ、ヤマボウシ、ムラサキシキブ、アオダモ、ガマズミ、ゴマギ、オオミヤマガマズミ 以上の種子を採取しました。

現地や会員宅、東京農業大学などで育苗し、現地に順次戻していく予定です。

## 2013年の活動について

2003年から始めたこの活動も、始めてから10年が経ちました。当初は一面のススキの野原のようだった活動地が、低木林になりました。最初は昆虫もほとんど見られなかったのですが、最近はお下刈りをしていると虫が気になるようになってきました。と同時なのかわかりませんが、ほ乳類も外から移動して入ってくるシカやイノシシ、ウサギだけが見られたのですが、アカネズミなどの小動物も見られるようになりました。ようやく林内の環境が広葉樹の林になってきたようです。自立した天然の森林になる様子が見えて参りました。

「環境の保全を図る活動」を目的としたNPO法人の活動としても、森林復元に関わる活動を通じて様々な体験活動、たとえば植樹活動や自然観察会とそのためのインタープリター活動などを、様々な団体を受け入れて行って参りました。それらの活動を通じて会員のみなさんにもいろいろな経験を積んで頂くことができていると思います。

協定林では引き続き、ツタが木を覆ってしまったり、ササが林床に増え過ぎたりしないように現地を継続的に観察するとともに、植栽する樹種をさらに増やすこと、補植の場所を細かく計画することなど、よりきめ細かく高度な管理を進めていきたいと考えております。また各種団体の植樹活動・ボランティア活動の受け入れや環境教育への協力も進め、今後も活動の裾野を広げたいと思います。そのほか、富士山国有林で同様の活動をしている団体で構成されている「富士山国有林森づくり連絡協議会」への参加も継続し、関係諸団体と連携を取りながら、地域全体を見つめた活動を続けます。

2012年から室村会員の発案により始まった、小動物の調査も継続していきます。これら様々な活動をみなさんといっしょに楽しく取り組んでいきたいと思っております。室村さんからの小動物観察記録は別途、報告が掲載されておりますので、そちらをご覧ください。

### 《2013年活動報告・日程ごと》

日 程	開催形態・作業内容 など	参加 人数	内訳	
			会員	一般
3月6日	今年度活動の打ち合せ ・NTT労働組合東日本総支部組織部	1	1	
5月7日	現地調査・作業 / 動物調査 えさ箱の設置および観察	3	1	2
6月9日	現地調査・作業 / 動物調査 えさ箱の設置および観察	2	1	1
6月15-16日	現地打ち合せ・作業 ・マメザクラの種子採取 ・現況調査と林床の整備	9	4	5
8月24-25日	<夏の下刈り、密度調整作業> ・ススキ・低木下刈り、ツル切り作業 会員育成の苗を補植 セラニーズジャパン (株) 社員ボランティア7名参加	20	4	16
8月29日	現地調査・作業 / 動物調査 えさ箱の設置および観察	2	1	1
9月18日	現地調査・作業 / 動物調査 えさ箱の設置および観察	2	1	1
10月19-20日	<秋の種子採取活動・樹木観察会> ・種子採取 (堅果類、果実系種子) 協力: 東京農業大学治山・緑化学研究室 (12名参加) セラニーズジャパン (株) 社員ボランティア2名参加	28	6	22
10月26日	現地調査・作業 / 堅果播種箇所のメンテナンス	3	1	2
11月5日	現地調査・作業 / 動物調査 えさ箱の設置および観察	2	1	1
合計人数		72	21	51

## 森づくりの活動評価<炭素吸収量>について・2013年

活動に参加して下さっているみなさまは、当初の一面のススキ草原から現在の低木林になったところを実際に見ていて、植生のボリュームが大きくなったことを実感して下さっていることと思います。そこで、私たちの活動している協定林がどのくらいの炭素を吸収しているといえるのか、2013年の実績を計算致しました。この計算値は林野庁の作成した幹の体積（材積）から計算する簡易な計算方法で計算したもので、実際に現地で測定した値ではありませんが、おおよその効果を判定することはできると考えられます。

静岡県から頂いた収穫表によると、10年生広葉樹林の材積は15 m<sup>3</sup>/ha、15年生では30 m<sup>3</sup>/ha、この間の年間成長量は3.0 m<sup>3</sup>/haだということです。

林野庁によると、森林吸収量は以下の計算方法を使って推定します。

吸収量（炭素トン／年）

＝幹の体積の増加量（m<sup>3</sup>／年）×容積密度（トン／m<sup>3</sup>）×拡大係数×炭素含有率

幹材積は、樹木の種類と林齢がわかれば平均的な幹材積を調べることができる「収穫表」を利用して計算します。

以上の情報から計算した、静岡県に位置する山の自然学クラブ協定林での2013年の活動による炭素吸収量は以下の通りです。

### 富士山森林復元活動における、森林整備及び補植による年間炭素吸収量

作業内容：下刈り等保育（4.56ha）および広葉樹補植（2013年・20本）

1999-2000年に初期植栽（遷移の始まり）、2003年～保育作業＋補植を開始

場所：静岡県 林種：広葉樹人工林 2013年の林齢＝13年 補植本数＝20本

内容		年間固定量	
林齢 13年（齢級3）	保育作業 4.56ha	27.16791	トン
補植 広葉樹	樹高50cm×20本	0.09359	トン
<b>炭素固定吸収量</b>	<b>上記2つの合計</b>	<b>27.26150</b>	<b>トン</b>

■被災直後の被害状況 -富士山地域-



編者のようになき倒されたヒノキ人工林 199あ・う・む林小原 ヒノキ39・55・32年生 (100)



左写真：1996年 台風による被害を受けたヒノキ人工林・199林班(活動協定林のとなりの林班)

富士山国有林台風被害一復旧10年の歩みー 静岡森林管理署発行誌より転載

中写真：2004年9月撮影 活動2年目の協定林 一面のススキの原の様相

下写真：2013年6月撮影 活動10年が経ち低木林となった協定林 写真付近の群落高は約5 m

## 《2014年活動計画》 ※詳しい日程は未定です

2014年もこれまでと同様、季節に応じた森林再生・復元活動と自然観察会・現地講座・インタープリターを行います。一般の方にもできるだけ多く参加していただき、各種団体の受け入れも積極的に行っていきたいと思います。今後も各位のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

### <年間の主な活動内容>

- ・春前 ー芽生えの前に現地へ苗を持っていきます。冬期に荒れた林地の整備と地拵え
- ・春 ー植栽適期です。補植、挿し木などを中心に行います  
7月20-21日 三井住友銀行ボランティアスタッフYui のみなさんと植樹・自然観察会
- ・夏 ー梅雨明けからススキ、ササ、ツタが一気に伸びますので、下刈りを行います
- ・秋 ー種子採取、山取苗の採集

### 他団体の活動受入予定 <2014年度予定>

#### ・三井住友銀行ボランティアスタッフ“Yui”

2009年7月に創立10周年の記念行事を兼ねて活動を受け入れさせて頂きました。補植等の活動と自然観察会、室内講座のセットで実施しましたが、2014年は15周年とのことで、再びいらして下さいます。前回とほぼ同様の内容で実施を希望されています。楽しみです。

#### ・セラニーズジャパン株式会社

2013年に富士山の環境保全活動ができる団体として問い合わせ頂き、当会の活動に参加頂くことになりました。社員のみなさんで、年間を通じてご参加下さることになっています。

団体の受け入れだけでなく、個人で参加して下さる一般のボランティアの方が増加するように、今後ますます活動の周知、広報に力を入れていきたいと思っています。

---

### Yahoo! 募金の寄附にご協力お願いします

2007年からYahoo!「ネット募金」で富士山森林復元活動への募金を採用頂きました。引き続きご協力お願いします。アドレスが変わりました。 <http://donation.yahoo.co.jp/detail/1832001/>

### 東京農業大学からの協力について

活動で採取した種子の多くを、東京農業大学 治山・緑化学研究室にて精選・管理・保存して下さいしているほか、植栽用の苗木育成も一部お願いしております。また富士山の活動に関わらず、会の活動全般に関して様々な面でサポートを頂いております。福永先生、橘先生をはじめとする研究室の皆様の多大なるご協力をここに記し、深く感謝申し上げます。

### 一般財団法人セブン-イレブン記念財団の「地球温暖化対策助成」

2013年度、一般財団法人セブン-イレブン記念財団より「地球温暖化対策助成」の活動助成を頂きました。地球温暖化対策助成は2012年度に新設され、森林の保護・保全を通じたCO<sub>2</sub>削減活動を原則3年間継続して支援するものです。2012年より第1期の助成対象として選んでいただき、3年間継続して頂ける予定です。

### 一般財団法人日本損害保険代理業協会「グリーン基金」

一般社団法人日本損害保険代理業協会のグリーン基金から2013年、富士山の森林復元活動へ助成を頂きました。協会員のみなさんにもご参加頂けるよう引き続き案内させて頂きます。